

三菱地所グループ 2030年度までに型枠コンクリートパネルに 持続可能性に配慮した調達コードにある木材と同等の木材を100%使用

三菱地所グループは、オフィスや住宅等の建設時に使用する型枠コンクリートパネル^{※1}に持続可能性に配慮した調達コード^{※2}にある木材（認証材並びに国産材）と同等の木材を使用します。この取組みは三菱地所では2020年4月以降配布する見積要項書への記載から開始し、三菱地所グループとして2030年度までにその使用率を100%にすることを目指します。

※1 建物を建築する際使用するコンクリートの型枠用の合板です。合板で型枠を組み、そこに生コンクリートを流し込んでコンクリート建物を造ります。

※2 持続可能性に関わる各分野の国際的な合意や行動規範等を参考に、持続可能性に配慮した調達を行うための基準や運用方法等について定めたものです。

当社グループは、長期経営計画2030で「三菱地所グループのSDGs (Sustainable Development Goals) 2030」を設定し、実現のための重要テーマとして、「Environment」「Diversity & Inclusion」を掲げています。持続可能な社会の実現に向け、社会の一員として、人権尊重の重要性を改めて認識し、グループ企業だけでなく、あらゆるステークホルダーの基本的な人権を尊重する責任を果たすことを目的として、2018年4月に「三菱地所グループ 人権方針」を制定し、人権デュー・デリジェンスを行いました。その結果を踏まえ、時代が抱える社会課題への解決策を提供するべく、以下の具体的な取組みを実施していくことと致しました。

1. 型枠コンクリートパネルについて

国内で使用される型枠コンクリートパネルの多くは、南洋材（マレーシア、インドネシア等）が原料となっておりますが、先住民の土地収奪や環境破壊等が問題視される違法伐採木材が含まれていることがNGO等から指摘されております。そこで、当社グループでは、人権及び環境保護の観点から、型枠コンクリートパネル（合板）について、SDGsの最終年度である2030年度までに、持続可能性に配慮した調達コードにある木材（認証材並びに国産材）と同等の木材の使用100%を目指します。

2. 外国人技能実習生に対する人権尊重について

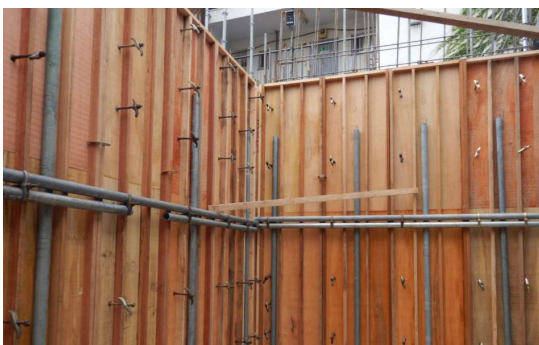
実地調査を行い、盲点になりやすい点（報酬や日常生活に関する事項等）について、見積要項書に記載することで、当社より発注先に対し協力会社を指導（周知）するよう申し入れを行います。

3. 海外事業における人権デュー・デリジェンス

一般的に人権侵害の事例の多いアジアにおいて、事業検討時（土地取得時）にチェックリストを用いた人権デュー・デリジェンスを行い、事業参画の際の判断材料とします。

三菱地所グループは、今後も社会の一員としての責任を果たすよう、社会課題の解決に取り組んでまいります。

以上



▲型枠コンクリートパネル 使用イメージ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



▲今回の取組みに関連するSDGs目標

(参考) 本件に関連する当社グループの取り組みについて

「三菱地所グループ長期経営計画」

https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200124_managementplan.pdf

「三菱地所グループの SDGs (Sustainable Development Goals) 2030」

<https://www.mec.co.jp/j/sustainability/management/value/>

https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200205_sustainability%20vision%202050.pdf

「三菱地所グループ人権方針」

<https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec180403jinken.pdf>

「建設・不動産 人権デュー・デリジェンス勉強会」

https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec180921_duediligence.pdf